

(平成 30 年度第 3 回食育推進評価専門委員会)

第 3 次食育推進基本計画フォローアップ(中間取りまとめ)(案)、平成 30 年(2018)年度の目標達成状況についていただいた主な御意見

- ある市内の小学校を対象に、共食の状況や食事中に子供や保護者がスマートフォンを触っているのか調査を行っている。国のデータだけでなく、そういった様々なデータも検討に活用できると良い。
- 高齢者の口腔機能低下症に触れているが、小児の口腔機能発達不全症についても記述されると良い。
第 2 の 2 (2)「学校、保育所等における食育の推進」において、小学生のみについて歯科口腔保健の推進の記述があるが、乳幼児期から学童期の子供も含めた記述としてほしい。
- 農林漁業体験については、食育推進基本計画の重点課題「食の循環や環境を意識した食育の推進」に位置付けられていることを踏まえ、「自然や文化との関わりを農林漁業体験で学ぶ」といったニュアンスを追記してはどうか。
- 食料自給率が低い中で地域の農業の担い手は減っている。伝統行事なども含めて、地域をどのように維持するかということも農業体験で学べると良い。
- 広報用のパンフレットについては設置場所も重要だが、A 4・3 折りなどの手に取りやすい形にすることも重要。QRコードを付けてホームページに誘導するなどの工夫も大事。
- 早寝早起き朝ごはん運動は活発に行われているが、本当に必要な人に届いていない。「子供が自ら調理し、食を選択する力を身に付けるため自ら学ぶ機会の提供」との記述があるが、そのためには義務教育におけるより一層の食育の推進が必要。
- 「学校、保育所等における食育の推進」の項目における「子供自身が朝食を準備したり」との記述は、学校、保育所等で必ず朝食を準備するようにすべきと誤解されないか心配。
- 第 2 の主な意見で、「〇〇が必要」や「〇〇が重要」といった記述がある一方で、「〇〇は食育への追い風」といった事実を描写している記述もあるので、統一した方が良い。
- 食育に関心が低い人への訴求方法が重要であり、行動経済学(ナッジ、フレーミング)の手法を活用した発信も検討する必要があるのではないかと。
第 3 の「今後重点的に取り組むべき事項について」では、具体的な内容が記述されている項目もあるが、抽象的な記述も見られる。第 4 次基本計画の作成に向けて、具体的な取組内容を考えることが必要。
- 朝食を欠食する子供をどう減らすのか、若者の栄養バランスが悪くなっていることをどうするのかといったことについて、ピンポイントで深掘りして議論し、課題を解決することが大事だと思う。